

ドロップ・サイト・デイリー、10月26日：ルラ氏がボルソナロ氏を破る；イスラエルがヘブロンで3,100人以上のパレスチナ人を追放；セルビアで学生主導の運動がヴチッチ氏を打ち負かす

脇浜義明訳 *脚注は訳注

パレスチナ

*** 26日、イスラエルの攻撃でパレスチナ人7人死亡：**Wafaによると、ガザ回廊南部のハーン・ユーニスへのイスラエル軍の攻撃で、7歳の少女を含む少なくとも4人のパレスチナ人が死亡し、10人以上が負傷した。また同じ日ガザ市西部のリマル地区への「イスラエルのドローン攻撃でパレスチナ人1人が死亡、数人が負傷した。ガザ回廊中部のデイル・アル・バラフへのイスラエルのドローン攻撃ではパレスチナ人2人が死亡、2人が負傷した。

・ガザのパレスチナ保健省によると、過去24時間でイスラエル軍のガザ回廊各地への攻撃で8人のパレスチナ人が死亡し、35人が負傷した。瓦礫の下から3体の遺体が回収された。

・2023年10月7日以降の累計死者数は74,555人となり、負傷者は175,727人となった。いわゆる「停戦」初日となる2025年10月11日以降、停戦違反のイスラエル軍の攻撃で殺害されたパレスチナ人の数は少なくとも1,559人で、負傷者は5,608人となった。瓦礫の下から回収された遺体は845体である。

*** イスラエルがシュジャイヤ避難民キャンプに放火、800人が避難脱出：**アル・ジャジーラによれば、ガザ市東部にあるシュジャイヤ地区にある避難民キャンプにイスラエル軍が放火したので、800人以上の避難民がまた避難を余儀なくされた。

・25日、現地時間で午後8時頃、イスラエル軍クアッドコプターが避難民キャンプに火をつけ、男、女、子ども、老人が暮らしていたテント村が焼失した。

*** 西岸地区でイスラエル軍の攻撃が続く中、ヘブロンで3100人以上のパレスチナ人が強制退去：**

・ヘブロンでは、Wafa通信によると、イスラエル軍はヘブロンで4日間連続で軍事行動を行い、家宅搜索、建物の破壊、そして大勢の住民を強制立ち退きさせた。地元当局によると、イスラエル軍は488世帯、3171人を強制的に立ち退かせた。70人以上のパレスチナ人が拘束され、500軒以上の家が家宅搜索された。イスラエル軍は128箇所のゲートを閉鎖し、120箇所に軍検問所を設置した。アル・サムーでは、入植者らは58歳の女性を彼女の家の前で殴打し、女性は胸の負傷を負って入院した。アル・ザヒリヤでは、羊を放牧していたパレスチナ人兄弟を入植者が襲撃し、その後イスラエル軍が兄弟を拘束した。

・ジェニンでは、イスラエル軍は、アラーバ近郊の入植地とジェニン南部の入植地を結ぶ全長11.5キロメートルの入植地用道路を建設するために、パレスチナ人の土地をブルドーザーで整地し始めた。また、ハダード観光村近郊では、温室、農業用施設、自動車ショールーム、レクリエーション・パークなど、農業用と商業用の施設の取り壊しにイスラエル軍が着手した。

*** 「貧者の医師」として知られるパレスチナ人医師が4か月間の拘留の後釈放された：**パレスチナ人囚人協会によると、イスラエル当局はマゼン・アッランティシ医師（71歳）をガノット刑務所から釈放したが、彼の体には虐待の痕跡がはっきり残っていた。西岸地区で「貧者の医師」と知られていたアッランティシ医師は、6月21日未明に、ラマッラーにある自宅を急襲したイスラエル軍に逮捕された。逮捕の理由は家族にも全く告げられなかった。

・イスラエルのメディアは、医師の逮捕は、彼がパレスチナの医療団体「保健活動委員会連合」の議長を務めていたことと関連している報じていた。イスラエルはこの団体を2020年に「非合法組織」と指定したからだ。

*** 週末、イスラエル軍はガザ回廊で、少なくとも14人のパレスチナ人を殺害した：**シェハブ・ニュースによると、24日の土曜日には女性2人と少女1人を含む6人のパレスチナ人が、翌25日の日曜日には8人のパレスチナ人がイスラエル軍に殺害された。

・イスラエル軍はガザ市のイスラム大学を2回空爆し、警備職員3人が死亡、数人の学生が負傷、何人かは重傷である。

- ・「今日、授業を受け、教授の説明を懸命に聴いていたら、突然、私たちのすぐ下で、空爆の凄まじい爆発が起きました」と、工学部学生のカンディルがドロップ・サイトのアブデル・カデル・サッバー記者に語った。
- ・「私たちは学ぶために、教育を受けるためにここへきているのです。自分たちの社会を、彼らが破壊し、荒廃させてしまった私たちの国を再建するために勉強しているのです。何故彼らはこんな場所まで攻撃するのでしょうか？」とカンディルが言った。
- ・「停戦は見せかけです。戦争は終わっていません。イスラエルの残虐行為を止まっていないのです」と、ウンム・ラミ・ディーブが言った。サッバー記者の取材の映像は、Drop Site @DropSiteNews, Oct 26, 2026 で視聴できる。
- ・ガザ回廊中部では、イスラエルは8歳の少女を撃ち殺した。彼女は、2023年12月のイスラエル攻撃で死亡した家族の唯一の生き残りであった。

***明日はイスラエルの選挙。ネタニヤフ首相とアイゼンコットが競り合い：**明日の27日にイスラエル国民が議会選挙の投票を行うが、リクード党のネタニヤフ首相は接戦を強いられている。彼の最大のライバルは、イスラエル国防軍の元参謀総長で、新党「ヤシヤル」を率いるガディ・アイゼンコットである。彼は、ガザ・ジェノサイドの初期数か月間、ネタニヤフの戦争内閣の閣僚であった。

- ・イスラエル軍の北方方面軍司令官をしていたとき、アイゼンコットはいわゆる「ダヒヤ・ドクトリン」、民間人の生活とインフラを意図的に大規模破壊する軍事戦略を考案した。この民間部門攻撃戦略は、2006年のレバノン戦争のとき、イスラエル軍が日常的に爆撃したベイルート南部のダヒヤ地区の名を借りて名付けられた。「2006年にダヒヤ地区で起きたことは、イスラエルが攻撃するすべての村で起きるだろう」と、アイゼンコットは2008年に言った。「我々は我々の絶大な力を行使して攻撃し、途方もない大きな破壊と被害をもたらすであろう。我々の立場から見れば、それらは民間人の村ではなく、軍事基地なのだ」と述べた。

***イスラエル軍司令官、イランとの対立の関するネタニヤフ首相の命令に異議：**チャンネル12の報道によれば、イスラエル軍最高司令官はネタニヤフ首相の命令に、そんな命令を実行すれば27日の選挙の2日前にイランとの突然の対立を引き起こす可能性があるとして、応じようとしなかったといわれるが、命令の内容は明らかにされていない。・イスラエルのカッツ国防相は、この報道を「根拠がない」と一蹴した。

イラン

***予想外の外交的動向、サウジアラビア、パキスタン、トルコの高官がイラン訪問：**26日サウジアラビア、パキスタン、トルコの高官たちが、イランのマスード・ペゼシュキアン大統領とモフセン・レザエイ最高安全保障会議書記と会談するためにテヘランに到着した。会談では、イスラエルのパレスチナとレバノンにおける行動や米軍のイラン攻撃の影響など、地域の安全保障について協議。これは、8月に3カ国がメッカ防衛協定に署名して以来、イランと3カ国の初の会談となる。

- ・サウジアラビアの外交官ラエド・クリムリーは、この訪問はカタールとパキスタンの仲介努力を支援するもので、「地域安全保障と安定の強化」におけるメッカ防衛協定の役割を強調した。
- ・イラン外務省のイスマイル・バガイ報道官は、この会合は外部勢力に依存しない地域安全保障枠組みの構築への道を拓く可能性があるとして、「地域安全保障は、地域諸国の主体的意思と配慮に基づいてのみ確保できる」と付言した。
- ・また、バガイ報道官は、イスラエル総選挙は重要ではないとし、選挙は「さらなる犯罪、侵略、殺戮を目的とした種々の派閥間の競争」だと言った。「誰がイスラエル政権を取ろうと我々には何の影響もない。イスラエルは暴力と殺戮以外、この地域に何ももたらしていない」と付言した。

***イラク、イランへの圧力を強めるため国境閉鎖を継続、閉鎖に反対するイラク高官の逮捕を命令：**イラクの裁判所は26日、政府がイランとの通路であるアッシーブ・クロッシングを再開しなければ市民的不服従運動を起こし、道路封鎖すると言ったマイサーン州議会のムスタファ・アル・モハマダウィ議長に対し、逮捕状を発行した。

- ・イラクは21日に、安全保障上の懸念と密輸防止設備の設置を理由に、アッシーブ国境通路を無期限に封鎖した。パキスタンも先週、イランとの国境通路ガブド・リムダンとタフタを通じた交易を停止した。

・これらの措置は、イランへの海上封鎖とイランの陸路貿易ルートを妨害する米国の圧力を示唆するが、両国政府は、米国の要請と公式にはむすびつけていない。

***衛星画像では、UAE 沖で原油流出が拡大：**ロイター通信の衛星画像に基づいた報道によると、アラブ首長国連邦(UAE) 沖で損傷したタンカーからの原油流出汚染が拡大しており、黒い油の層が海と北部のウンム・アル・クワイン首長国の海岸沿いに広がっている。

・UAE 気候変動・環境省は、ウンム・アル・クワイン市周辺のすべてのビーチと沿岸地域を一時的に閉鎖したと発表した。また、隣のシャールジャ首長国のアル・ハムリヤ・ビーチへのアクセスも予防措置として閉鎖された。

・UAE 当局は事故タンカーの船名や流出原因を明らかにしていない。しかし、専門家筋はロイター通信に対し、流出タンカーは「ジェム No.2」と呼ばれるタンカーで、先月、正体不明の飛行体の攻撃で火災になったが、その後消火した船である。

イエメン

***サウジ主導の連合軍はイエメンを空爆、一方アンサール・アッラーは空港、基地、石油インフラを攻撃したと主張：**サウジアラビア主導の連合軍の報道官は26日、イエメンのアンサール・アッラー支配地域を標的に一連の爆撃を行ったと発表した。連合軍は、弾道ミサイルを保管するトンネル5本、ミサイル発射装置4基、ミサイル貯蔵施設1棟と破壊したと主張している。さらに、連合軍は、サヌアにあったミサイル発射装置2基を破壊したと主張、このうち1基がサウジアラビア首都攻撃に用いられたものと見られている。サヌアを拠点とするメディアは、26日に首都サヌアで太陽光線発電システムと井戸が空爆されたと報じた。

・アンサール・アッラーは26日にリヤドの空港を弾道ミサイルで攻撃したと広報担当者が発表した。サウジアラビア軍がこれを迎撃したと発表した。また、アンサール・アッラーはサウジアラビアのイースト・ウェスト・パイプラインのポンプ施設に対してドローン攻撃を行ったと主張した。

・アンサール・アッラーは25日、リヤドのキング・ハーリド国際空港、ハミース・ムシャイトにあるキング・ハーリド空軍基地、ジーザーンにあるサウジアラビア国境警備隊の海軍基地を標的にした3つの軍事行動で数十発の弾道ミサイルを発射したと発表した。さらに、アンサール・アッラーは、イエメンのアデンとラヒジュにあるサウジアラビアが支援するイエメン政府軍の陣地や武器庫を弾道ミサイルで攻撃し、タイズ上空ではサウジアラビア軍の偵察・攻撃用ドローン「ウィング・ルーン II」を迎撃したと主張した。

***エジプト議会、サウジアラビアからの要請があれば、シーシ政府が軍を派遣することを承認した：**アル・アラビーヤの報道によると、エジプト議会は、サウジアラビア王国からの要請があった場合、サウジアラビア防衛のためにエジプト軍を派遣するというアブドルファッターフ・アッシーシ大統領の要請を承認した。

***アンサール・アッラーの包囲の中、タイズ県の病院や医療施設の半分以上が閉鎖：**イエメンの女性エンパワーメント財団によると、アンサール・アッラーの包囲と攻撃が続く中、タイズの病院や医療施設の約52%が操業停止に追い込まれた。

・人工透析患者6人が死亡し、1280人が治療中断になっている。20の産科クリニックが閉鎖となり、集中治療室の母親192人と、保育器に入っている新生児154人がそのために生命の危機にさらされている。

・サウジアラビアが支援するイエメン暫定政府によると、最近砲撃、狙撃、救急車への攻撃によって、250人以上の民間人が死傷した。

・タイズの若者たちはスカイニュースの取材で、アンサール・アッラーの包囲の中、反アンサール・アッラー勢力からの軍事支援はほとんどないと語った。一人の若者は「彼らは『自分のカラシニコフを持ってこい』と言って、ビニール袋に入れた弾丸20発くれただけで、『前線へ行け、戦え、殺してこい』というだけだと、スカイニュースに語った。

***サウジ主導の連合軍のイエメン空爆で21人死亡、30人負傷：**イエメンのアンサール・アッラー主導の政府が24日に発表した統計によると、サウジ主導の連合軍のサヌア、ハムダン、タイズ、ホデイダ、サアダの5箇所に対する空爆

で、24時間で21人が死亡、30人が負傷した。犠牲者の大半は女と子どもで、少なくとも9人の子どもが死亡し、7人が負傷した。

米国のニュース

***ミシガン州で、オバマとトランプのそれぞれの集会、トランプはイスラム恐怖を煽って支持者の結束を図る：**中間選挙を9日後に控え、ミシガン州ポートヒューロンで共和党上院候補マイク・ロジャースを支持する集会が開かれ、トランプ大統領が応援演説で、対立候補の民主党のアブドゥル・エル・サイードを、根拠もなく「ムスリム同胞団」のメンバーだと決めつけ、「アブドゥルや民主党が勝利すれば、彼らは水門を開き、大勢のジハード主義者を我が国に招き入れるだろう」と警告した。さらに彼は、エル・サイードのような経歴を持つ人物は「厳重な検査をされ、飛行機に乗ることもできないはずだ」と言った。エル・サイードはこれまで何回もムスリム同胞団なんかと関わりがないと否定しており、「私の名前や信仰は、皆さんがガソリン代を払えなくなっている理由とは何の関係もない」と反論している。

・元大統領のバラク・オバマは24日、デトロイトの集会で、エル・サイードは「変化のために、本当の変化のために、この戦争を終わらせるような変化のために闘っている」と語り、「そんな彼のどこが過激派だと言うのか？」と問いかけた。

・上院選挙戦では黒人票の動向が焦点となっている。エル・サイードは、黒人が人口の75%を占めるデトロイトの民主党予備選で苦戦した。世論調査会社 YouGov の推計によると、黒人有権者のうちエル・サイードを支持するのは84%、マイク・ロジャースを支持するのは11%である。ところが、9月下旬に行われたフォックス・ニュースの世論調査では、ロジャースの黒人支持率は22%であった。

・NBC の番組「ミート・ザ・プレス」に出たロジャースは、2012年にムスリム同胞団の「穏健なメンバー」となら一緒に働けると発言したことを追及されたが、彼はその質問に答えなかった。

***米軍がスペースX社に精密な宇宙追跡データへのアクセスを与え、利益相反問題が浮上：**米宇宙軍はスペースX社との間で、宇宙軍司令部が持つ「高精度カタログ」への「強化された」アクセスを同社に認める契約を締結した。民間企業にこのようなアクセス権が授与されるのは初めてである。その見返りとして、政府側はスペースX社のスターリンク・システムにあるスターゲイズ・センサーへのアクセス権を得る。イーロン・マスクが率いていた政府効率化省は、連邦政府が構築を推進しようとしていた宇宙交通調整システムを骨抜きにして、民営化しようとしていた。

***ニューヨーク市、イスラエルの追跡技術企業と入札なしの契約を締結：**ニューヨーク市警察は、イスラエルの監視技術企業 Cognyte 社と、3年間で75万5000ドルの競争入札なしの契約を締結する予定である。契約対象は FalcoNet と呼ばれる AI 駆動の装置で、携帯電話の基地局になりすまして携帯電話を追跡できるものだ。この装置はパトカーやドローンに搭載したり、バックパックに隠すことができると、ニューヨーク・デイリー・ニュースが報じた。本来、携帯電話の通信傍受には令状が必要である。市民的自由擁護者らは、この技術は、本来の標的の犯罪者以外の人々に利用される恐れがあると警告している。

***米国はキューバを対処するとトランプ、ルビオはキューバ人に CIA に協力せよと言った：**トランプ大統領は23日のフロリダ州の集会で、米国は「イランからの帰り道に」キューバ問題に対処すると言って、マルコ・ルビオ国務長官を「対処ディールをまとめるために」派遣すると言った。

・ルビオ長官はキューバの国民に CIA に協力するように呼び掛けている。彼はXに投稿し、「前向きな変化をもたらそうとする」キューバ人に対し「CIAと密接な協力関係」を通じて「この機会をとらえて活動する」ように促した。

***情報筋によれば、ホワイトハウスは若手職員に対する一斉恩赦を検討：**ワシントン・サン紙の関係者の発言を引用した報道によると、ホワイトハウスの法定代理人らは、若手職員に対する包括的な恩赦を行うことを検討している。この恩赦は、国外追放、戦争、貿易などの分野に関わり、市民団体などから告訴されている職員全員を対象にしている。ヘリテージ財団やアメリカン・モーメントなどの団体は前々からホワイトハウスの法務顧問に恩赦の準備をするか、そうでないなら裁判で争う法的費用の負担を求めている。保守派活動家のマイク・デイビスは「広範な予防的恩赦」の実施を求めた。デイビ

ス発言は、エリッサ・スロトキン民主党上院議員が、議会による調査をおこない、「若い共和党員がトランプ政権への協力に二の足を踏ますべきだ」と発言したことへの反応である。

*** ブランチ、アラスカ州上院選で共和党候補が敗北したら、その選挙結果を自動的に確定するのを阻止する訴訟をするという司法省を弁護：**トッド・ブランチ司法長官は25日、CNNのインタビューで、アラスカ州で共和党が敗北した場合、その結果をそのまま認めず、司法省が訴訟で調査するという方針について、「選挙結果を覆すための地ならしをしているのではない」述べ、司法省の目的はあくまで法律が厳守されているかどうかを「確認」するだけだと説明した。トランプ大統領の指示で22日に提起されたこの訴訟は、投票用紙に記載された2人の候補者の名前 — 現職の共和党上院議員ダン・サリバンと元教師の共和党から無党派に転身したダニエル（略称ダン）・J・サリバン・ジュニア — が、投票者を混乱させる可能性がある主張している。しかし、投票は秘密投票なので、実際に混乱が起きるかどうかをどのように判断するかは、司法省は明らかにしていない。8月に行われた予備選挙では、サリバン上院議員は6万8000票以上を獲得、もう一人のサリバンは4107票であった¹。

*** トランプ大統領が署名した予算調整措置法「一つの大きな美しい法案」(One Big Beautiful Bill Act)の施行以降、フードバンクや食事支援プログラムの負担が増大し、SNAP（低所得者向け栄養支援プログラム）受給者が13%減：**同法によって就労要件が拡大され、扶養家族がいない受給者への給付が縮小されたため、SNAP受給者数は、2025年7月の4160万人から2026年6月には3650万人に減少した。アリゾナ州の場合、受給者は50%も減少した。

・支援団体は、雇用市場の逼迫の上に就労要件強化が重なったと指摘している。

・ミシガン州フードバンク協議会はヘルプライン（電話相談）での訴えが3倍以上に急増したために、一時的に受付を停止した。ヒューストンの独立学区ではSNAP受給生徒の数が減少したため、26校で無料給食提供資格がなくなった。

*** 米国、麻薬カルテル対策で、メキシコにさらなる協力を要請：**ニューヨークタイムズ紙によると、米国は最近、メキシコ国内で米国の治安要員がメキシコ軍に同行して麻薬カルテルに対処する枠組みを提示し、メキシコとのより緊密な情報共有を求めた。メキシコ側は、自国領内での合同作戦や米軍によるドローン攻撃は主権侵害になると繰り返し主張している。メキシコ高官によれば、政府は自国内での米軍の軍事行動に対して「断固反対の姿勢を崩していない。クラウディア・シェインバウム大統領は、メキシコの政治家を逮捕してほしいという米国の要請も拒否している。

*** AIPAC のペテン戦術：**ニュースサイト『ザ・レバー』の調査報道によると、AIPACは、女性の権利や生殖に関する権利などを掲げたように見せかけた「隠れ蓑」PACを通じて、選挙戦に数百万ドルの資金を投入している。詳しくは[“AIPAC Is Spending Millions—Just Not Under Its Own Name”](#), The Lever, Electons/Oct 24,2026 を読みたい。

その他の国際ニュース

*** ブラジル大統領選、ルラが極右のボルソナロを破って再選：**25日の決戦投票で、現職のルイス・イナシオ・ルラ・ダ・シルヴァ大統領が、極右の挑戦者の前大統領ジャイル・ボルソナロの息子のフラヴィオ・ボルソナロを僅差で破り、再選を果たした。400万票強の差で勝利したルラは国民の支持に感謝の意を表した。ボルソナロは選挙結果を「不可解」として、無効を求めている。

*** セルビアで、学生主導の運動が右派のヴィチッチを退陣に追い込み、議会選挙で大勝：**25日に行なわれた選挙で、セルビアの右派指導者アレクサンダル・ヴィチッチが敗北、10年間にわたる彼の権力体制が終わった。その決定的要因は、政治腐敗に反対する学生主導の運動で、ヴィチッチはこれを「外国の干渉」と非難していた。この抗議運動に関連する選挙連合「学生リスト」は、定数250のうち少なくとも135議席を獲得する見通しであり、ヴィチッチの政党に代わって多数派となる。

¹ 当初アラスカ州選挙局は、現職と同じ名前の元教師ダン・サリバンを、現職から票を吸い取るための立候補だという非難を受け、予備選挙の投票用紙から外したが、アラスカ州最高裁がそれを覆した。本選挙は4人の候補者で争われるが、共和党のダン・サリバンと民主党のメアリー・ベルトラの事実上の一騎打ち。

***ガーディアン紙、ソマリアで米軍がエル・ニーニョを「武器化」と報道：**英紙ガーディアン紙によると、エル・ニーニョ現象が強まり今月は気象災害が激化すると予測される中、米軍はドローン攻撃でソマリア南部の民間人を洪水多発地帯へ追い込んでいる。地元住民は、ジュバ川の水位上昇、路上に死体が転がっている状況、家屋が倒壊している状況を語っている。状況を監視している情報筋は、米軍は「エル・ニーニョ現象を戦争の武器として利用し、住民を洪水に見舞われやすい地域に追いやっている」と指摘した。米軍はそんな不正行為をしていないと否定している。

***ハイチで、行方不明のエルサルバドル兵士らを探す中遺体の発見：**ニューヨークタイムズ紙によると、ハイチで発見された遺体が、先週武装集団の待ち伏せ攻撃を受けて行方不明となった4人のエルサルバドル兵士のものかどうかとを、医師たちが調査している。事情に詳しい3人の関係者は、遺体が激しく焼損しており、身元特定は困難だと、ニューヨークタイムズ紙に語った。エルサルバドルのナジブ・ブケレ大統領は、発見された遺体は兵士たちのものではないと言った。大統領は先週、兵士の捜索のために数百人の特殊部隊をハイチに派遣しており、行方不明の兵士が無事に祖国へ帰還しなければ「武装集団を壊滅させる」と警告した。

***北朝鮮、38度線非武装地帯の爆発事件を韓国の「でっち上げ」とし、国境に榴弾砲を配備：**ロイター通信の現場目撃者によると、北朝鮮は26日に国境沿いへ3基の移動式榴弾砲を配備した。北朝鮮は25日に国連安全保障理事会に書簡を送り、9月に非武装地帯で地雷爆発で韓国軍兵士3人が負傷した事件について、韓国側の仕業と非難した。一方、これを北朝鮮の地雷によるものと見做している韓国側も先週国連に書簡を送り、両国の境界線の「正確な位置を相互に確認する」ための軍事協議を提案した。

***ヨルダン、ギリシャ正教教会での殺傷事件に関連して3人を逮捕：**ヨルダンの治安部隊は、先週西部カラク県にあるギリシャ正教会で葬儀の最中に、少なくとも9人が死亡し、40人が負傷した襲撃事件に関し、容疑者3人を逮捕した。ヨルダン公安局のオベイドアッラー・アル・マイタ局長は26日、この襲撃は同地域に住む家族3人によって実行されたと発表した。容疑者らは「過激なイデオロギー」に動かされたが、事前に襲撃を計画したわけでもなく、「外部勢力」とのつながりもないと述べた。

***マチャド、10カ月間以上の亡命生活の後、ベネズエラに帰国：**ベネズエラの野党指導者マリア・コリーナ・マチャドが、10カ月間にわたる亡命生活を終えてベネズエラに帰国したと25日に発表した。マルコ・ルビオ米国務長官は、彼女の「安全な帰国」は「米国が支援した和解協議」によって実現したものと述べた。ルビオ長官は、ベネズエラのすべての政治関係者に、米仲介の政府と野党の間で進行中の協議を尊重することを呼びかけた。マチャドの帰国は、一応米国が認めたデルシー・ロドリゲス暫定指導者体制を不安定にする可能性がある。

***RSFが発電所を攻撃、南東部全域が停電：**スーダンの国営電力会社によると、東部4州で即応支援部隊（RSF）の発電所攻撃で「甚大な被害」が生じ、同地域全域が停電となった。停電は、RSFが支配する地域の約半分にも及んでいる。

***ナイジェリアの村で武装集団の攻撃で少なくとも40人が死亡とアムネスティ：**アムネスティ・インターナショナルによると、ナイジェリア北東部タラバ州の村を武装集団が襲撃し、少なくとも40人を殺害した。ナイジェリア北部では「バンディット（強盗団）」と呼ばれる武装集団の襲撃が頻繁にあり、村々を襲って住民を身代金目当てに拉致したり、家畜を奪ったりしている。

***アルジェリア、ニジェールへの軍派遣を承認、1973年以来初の外国への軍派遣：**アルジェリア議会は25日、リビア国境に近いニジェール北部へ部隊を派遣することを全会一致で承認した。派遣開始時期は明らかにされていない。アルジェリアが外国へ部隊を派遣するのは、1973年エジプトへ対イスラエル戦争を支援するために派遣して以来初めてとなる。